

# いわき農林水産ニュース

(ごちそう ふくしま絆づくり運動ニュース)

3月号 発行 平成24年3月26日



## 東日本大震災関連



### 「いわき地方の農林畜産物モニタリング調査結果」について

福島県が行ったいわき地方の2月の農林畜産物のモニタリング調査結果をお知らせします。

調査した13品目55検体のうち、10品目49検体は検出限界値以下でした。(表1、表2)また、検出があった品目、検体においても100Bq/kgを大きく下回っております。

このうち野菜については、8品目中7品目が検出限界値以下のため検出されず、畜産物も4品目中3品目で検出がありませんでした。牛肉は、35検体のうち29検体が検出限界値以下となっています。

なお、3月10日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が規制されているのは、露地で栽培された原木なめこ、野生きのこトコズ、加工品では乾シイタケとなっています。

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま 新発売。」の農林水産物モニタリング情報で簡単に検索できますので、結果を確認のうえ、是非いわき市産の農林畜産物を御賞味ください。

農林畜産物の調査結果 (表1)

放射性物質が検出されなかった品目と検体数	放射性物質が検出された品目と検体数		計
	規制値内で検出された品目と検体数	暫定規制値を超過した品目と検体数	
10品目 49検体	3品目 6検体	0	13品目55 検体

暫定規制値(放射性セシウム)500Bq/kg

1点も放射性物質が検出されなかった10品目 (表2)

イチゴ(施設)	シュンギク(施設)	豚肉
葉ネギ(施設)	ミニトマト(施設)	鶏卵
コマツナ(施設)	パプリカ	原乳
ネギ		

## 一般情報



### 「6次化新商品キャンペーン」が実施されました。

2月11日(土)~13日(月)の3日間、福島市のヨークベニマル福島西店及び郡山市のヨークベニマル横塚店において、福島県とふくしま・地域産業6次化推進協議会の主催により「6次化新商品キャンペーン」を開催しました。

このキャンペーンは、1月に安達太良サービスエリア及び那須高原サービスエリアで開催した6次化新商品キャンペーンの第二弾として実施され、出展者自らが商品の試食販売を行い、お客様からの生の声を直接聞くことによって、より売れる商品への改良に繋げるとともに新商品のPRを行い、地域産業の6次化による農林水産業の復興を目指すことを目的としています。

今回のキャンペーンには、福島西店に13、横塚店に14の事業者が出展し、このうちいわき地域からは両店舗に「パティスリーパールノエル」のロールケーキ、「株式会社いわき遠野らぱん」のワイン、「韓国村からし屋」のキムチなど、5品が出品されました。



(6次化新商品キャンペーンの様子)

会場内の6次化商品コーナーでは、各出展者がお客様に声を掛けて商品を懸命にPRするとともに、商品に対する反応を直に感じ取っていました。

試食した多くのお客様には、味やデザイン、価格等についてのアンケート調査にも協力していただき、結果は、味やデザインについてはほとんどが「美味しい」、「よい」というものでしたが、価格についてはやや高いという厳しい意見もあり、今後の販売戦略に繋がる貴重な意見となりました。

また、6次化商品を1,000円以上購入していただいたお客様には、各店舗ごと先着100名に福島県オリジナル新品種のお米「天のつぶ」がプレゼントされました。



(6次化新商品を紹介するライシーホワイト)



### 「平成23年度 福島県農村青年会議」プロジェクト発表で助川成光氏が最優秀賞を受賞

平成24年2月10日(金)、郡山市労働福祉会館において、県内の青年農業者等約70名が集い、「平成23年度福島県農村青年会議」が開催されました。

この会議は、本県農業・農村の将来を担う県内の青年農業者同士の交流、資質向上を目的として毎年開催され、プロジェクト活動の成果と農業に関する意見発表及び、研修会が行われています。

今回、いわき農業青年クラブ連絡協議会の助川成光氏が「施設環境の違いによるトマトの収量と収益の違い」と題してプロジェクト発表を行い、最優秀賞(県知事賞)を受賞しました。

助川氏は、現在、両親と妻及び常時雇用3名の計7名でトマトの施設栽培に取り組んでおり、生産品は「親バカトマト」のブランド名で、市場等を通して県内外に出荷しています。

今回のプロジェクトは、平成21年に既存のハウスを建て替えた際、最新のコンピュータ制御式自動灌水同時施肥システムを導入し、システムの異なる新旧2つのハウスでのトマトの生育、収量及び収益について比較しその結果をまとめたものです。

この受賞により助川氏は、今年11月に宮城県で開催される「第43回東北農村青年会議」において、福島県代表としてプロジェクト発表を行うことが決定しております。



(最優秀賞を受賞した助川氏(中央))



### 平成23年度第2回「いわき農業普及推進懇談会」を開催

平成24年2月21日(火)、県いわき合同庁舎において、平成23年度第2回「いわき農業普及推進懇談会」を開催しました。今回は、東日本大震災後の農業普及指導活動について、関係機関や農業者の代表から意見をいただき、今後の普及指導活動計画や営農対策に活かすことを目的としております。

東日本大震災に係る活動については、福島県産米より高濃度の放射性セシウムが検出されたことに伴う玄米の緊急調査や、沿岸部の水稻・いちご等の塩害対策、農家の作付けに対する不安解消のための講演会・研修会の開催及び今後の営農対策を話し合う集落座談会の開催などについて報告を行



いました。出席者からは、震災後1年が経過しようとしているのに、未だ風評被害が収束しない等の報告があり、今後も継続して原発事故への対策が必要であるとの意見がありました。

普及指導活動の実績として、飼料米作付面積の増加及び農業者戸別所得補償制度への加入者数の増加がみられましたが、震災復旧に時間が費やされたことにより目標に達しない項目もありました。

平成24年度の普及指導活動計画については、東日本大震災からの復旧・復興の課題を追加することとしており、出席した委員の意見を踏まえた普及指導活動計画を作成することになります。特に、農産物の風評被害対策や放射性物質対策に関する情報の提供、農業者の経営安定化等を関係機関と連携しながら行っていくことなどを盛り込んだ計画となる見込です。

今回の懇談会では、東日本大震災という未曾有の災害に対して地域農業をどのように復興すべきかが、大きなテーマとなりました。



(平成23年度第2回いわき農業普及推進懇談会の様子)



## 川中子排水機場のポンプ場 設備操作説明会を開催

平成24年2月28日(火)、好間町の川中子排水機場において、地元管理者等約15名の参加により、排水ポンプの運転操作説明会を開催しました。

この排水機場は、水田や畑、農地周辺家屋等の降雨時における湛水被害を防止することを目的に、湛水防除事業として県が平成15年度より整備を進めてきました。

今年度の整備により川中子第1排水機場についてポンプ設備が完成したことから、地元の予定管理者等に運転操作の説明を

行ったものです。

始めにいわき農林事務所より施設の概要について説明し、その後ポンプ設備を製作した、株式会社日立プラントテクノロジー東北支社の担当者が設備の運転操作方法や留意点などを順番に説明を行いました。参加者たちは真剣なまなざしで説明に聞き入るとともに、機器類の機能などについて積極的に質問していました。

この排水機場の運転により降雨湛水による農作物の被害防止が図られることとなり、川中子地域においてもその効果が大きいと期待されています。



(川中子第一排水機場でのポンプ運転操作説明会の様子)



(同上排水ポンプについて説明する様子)



## 木質バイオマス加工流通施設が完成しました。

平成24年3月2日(金)、いわき市遠野町の遠野興産株式会社において、木質バイオマス燃料製造施設が完成し、林業関係者に対する施設見学会が開催されました。

当施設は、森林整備加速化・林業再生基金事業を活用して導入したもので、従来利用が困難であった根株等を効率的に破碎しチップ化することが可能な施設です。これまで森林内に残されていた資源からチップ

がつくられることから森林整備の促進も期待されます。



(遠野興産(株)での施設見学会の様子)



(搬入される林地未利用材)



### 第3回「直売所と生産施設めぐり」を開催

3月10日(土)、田人町の「田人観光いちご園」ほかにおいて、いわき農林事務所主催による日帰りバスツアー、第3回いわきの農産物「直売所と生産施設めぐり」を開催しました。

このツアーは、東日本大震災及び原子力発電所事故により避難を余儀なくされた双葉郡の方と最寄りの直売所、農産物生産施設などを見学を通じて結ぶものです。第1回の広野町、第2回の双葉町に続いて、第3回は渡辺町にある大熊町の仮設住宅居住者を対象にして行い、19名の参加がありました。

始めに訪れた田人町の田人観光いちご園では、生産者の蛭田氏より説明を受けた後、ハウス内の高設栽培で育った真っ赤なイチゴ「章姫(あきひめ)」を摘み取って味わったほか、直売品のイチゴを先を争うように購入していました。



(田人観光いちご園でのイチゴの摘み取りの様子)

次に訪れた泉町の「JAいわき中部泉農産物直売所」では、泉町周辺で生産された新鮮な農産物やその他の加工品等を買求めました。

参加者からは、「近くに直売所があることを初めて知った」、「また利用したい」等の声が聞かれました。

3箇所目に訪れた渡辺町の農事組合法人いわき菌床椎茸組合では、礎上理事から、菌床の材料である「おが粉」の段階から放射性物質の測定による管理を徹底し、安全なしいたけを生産・出荷しているとの説明を受け、参加者は関心するとともに、大きさが揃った菌床椎茸の様子に驚いていました。



(いわき菌床椎茸組合で施設の説明を受ける様子)

最後は「いわき・ら・ら・ミュウ」を訪れ、多くの魚介や海産物等を購入していました。

この「直売所と生産施設めぐり」の実施により、消費者と生産者との交流による絆づくりが図られたほか、風評被害払拭のための安全・安心の取組みについて理解を深めていただくことができました。





## 平成23年度第2回「いわき地域産業6次化ネットワーク交流会」を開催

3月12日(月)、県いわき合同庁舎において、いわき地域産業6次化運営会議主催による、平成23年度第2回「いわき地域産業6次化ネットワーク交流会」が農林水産業者、商工業者、各支援団体等約60名の参加により開催されました。

東日本大震災から1年が経過しましたが、風評被害がいまなお続き、大きく停滞した状況にあるいわき地域の農林水産業の復興を目指して、農林水産業と他産業の連携・融合により付加価値を創出する地域産業6次化の推進が目的です。

始めに、平成24年度の事業計画について事務局より説明を行いました。

次に、茨城大学農学部教授 塩 光輝氏より「震災・原発事故から1年を経過して～農業を取り巻く課題とこれからの地域産業6次化について～」と題して、東日本大震災や福島第一原子力発電所事故による被害状況のほか、TPP(環太平洋経済連携協定)や6次産業化のポイントなどを講演していただきました。



(ネットワーク交流会であいさつを述べる戸井田所長)

講演後は、いわき地域産業6次化ネットワーク会員による6次化商品PRプレゼンテーションと参加者交流会が開催されました。

交流会では、プレゼンターが展示した自社の6次化商品を前に参加者間相互の交流及び情報交換が図られました。(プレゼンテーションの事業者及び内容は次表のとおりです。)

### ネットワーク交流会プレゼンテーション一覧

事業者名	プレゼンテーションの内容
(農)いわき菌床椎茸組合・アグリ物産(株)	自社で開発に取り組んでいる、しいたけのリキュールやしいたけのうどん、しいたけのたたきなどの紹介。
(株)磐城高箸	自社で生産している高級割箸の紹介。
(株)アクセル	ロシアから輸入した高級はちみつといわきの農作物を活用する事業計画の説明。
(株)いわき遠野らばん	昨年末に販売を開始したいわき市遠野町生まれ山梨県育ちのワイン「レ・ジュール・デ・ラバン」について紹介。
いわきいきいき食彩館委員会	運営しているスカイストアで実施している風評被害対策や新たな地域産業6次化へ向けた取り組みについて説明。
韓国村からし屋	新商品「塩麹キムチ」等について紹介。



(ネットワーク交流会でのプレゼンテーションの様子)

# いわき農林事務所からのお知らせ

ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new.fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
  - (1)モニタリング情報検索
  - (2)出荷制限等一覧表

## 森林の届出に関するお知らせ

**森林の所有者届出制度が4月からスタートします。**

昨年4月の森林法改正により、平成24年4月以降、森林の土地の所有者となった方は市町村長への事後届出が義務付けられました。

**届出対象者** 個人・法人を問わず、売買や相続等により森林の土地を新たに取得した方は、面積に関わらず届出をしなければなりません。ただし、国土利用計画法に基づく土地売買契約の届出を提出している方は対象外です。

**届出期間** 土地の所有者となった日から90日以内に、取得した土地のある市町村の長に届出をしてください。

**届出事項** 届出書には、届出者と前所有者の住所氏名、所有者となった年月日、所有権移転の原因、土地の所在場所・面積とともに、土地の用途等を記載します。添付書類として、登記事項証明書（写しも可）又は土地売買契約書など権利を取得したことが分かる書類の写し、土地の位置を示す図面が必要です。

詳しくは、福島県いわき農林事務所森林林業部（電話0246-24-6193）又はいわき市林務課林業振興係（電話0246-22-1181）までお問い合わせ下さい。

「東日本大震災」  
及び「原発事故」からの  
復興のために！



皆様からのご意見・情報をお待ちしております。  
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課  
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地  
(県いわき合同庁舎 3階)  
TEL (0246)24-6152 FAX (0246)24-6196  
U R L <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>  
E-Mail [iwaki.nourin@pref.fukushima.lg.jp](mailto:iwaki.nourin@pref.fukushima.lg.jp)

